

○參 同 契 (和訓)

▲竺土大仙の心。東西密に相附す。人根に利鈍あり。道に南北の祖無し。靈源明に皎潔たり。支派暗に流注す。事を執するも元是れ迷理に契うも亦悟にあらざ。門々一切の境。回互と不

回互と。回して更に相渉る。爾らざれば位に依つて住す。色元質像を殊にし。聲本樂苦を異にす。暗は上中の言に合い。明は清濁の句を分つ。四大の性自ら復す。子の其母を得るが如し。火は熱し風は動搖。水は濕い地は堅固。眼は色

耳は音聲。鼻は香。舌は鹹酢。然も一一の法に於て。根によつて葉分布す。本末須らく宗に歸すべし。尊卑その語を用う。明中に當つて暗あり。暗相を以て遇うこと勿れ。暗中に當つて明あり。明相を以て覩ること勿れ。明暗各相對し

て。比するに前後の歩の如し。◎萬物自ら功あり。當に用と處とを言うべし。事存すれば函蓋合し。理應ずれば箭鋒柱う。◎言を承けては須らく宗を會すべし。自ら規矩を立すること勿れ。觸目道を會せずんば。足を運ぶも焉んぞ路を

知らん。歩を進むれば近遠に非ず。迷つて山河の固を隔つ。▲謹んで參玄の人に白す。▲光陰虚しく度ること莫れ。